日ポサロン会報

日ポサロン会報　創刊号
発行日　平成15年２月28日
事務局　日ポサロン
〒595-0041 泉大津市戎町６-10
TEL 0725-32-6328
FAX 0725-31-3747
E-mail : donkawai@pearl.ocn.ne.jp

ワジェンキ公園　ショパンと柳の木像

目次

（1999年９月～2000年12月）

発会式 ―― 2
ビヨトルクライン　コンサート＆ディナー ―― 3
ポーランド留学生を囲んで話し合う会 ―― 4
ビヨトルクライン　ピアノコンサート ―― 4
ルブリン舞踊団歓迎会 ―― 4
ポーランド黄金の秋ツアー ―― 5
編集後記 ―― 7
会員名簿 ―― 8
日ポサロン運営規則 ―― 8

発会式

1999年9月22日
ザ・シティクラブ備後町
出席者　43名

日ポサロン　発会式　次第

開会　11時

1　日ポサロン代表　河合康子　挨拶
2　来賓紹介
3　御来賓祝辞
　在大阪ポーランド共和国名誉総領事　高島浩一様

4　記念講演　アグネシカ　シュチビアウカ
　「ポーランドについて」
5　祝電披露

記念コンサート

ピアニスト　椿　佳美
　東京芸術大学器楽科ピアノ専攻卒業後1989年よりワルシャワショパン音楽院に留学し、当地に7年在住し、ポーランド各地で数多くのリサイタルを開く。
曲目　ショパン　ノクターン　他数曲

懇親食事会

世話人会のメンバーが各々の知人を誘ってのスタートであったが、思いのほか大勢が集まり、なごやかで楽しく格調高い会合を持つことが出来た。

発会式　祝辞

在大阪ポーランド共和国名誉総領事
高　島　浩　一
（要旨、文責・高島　和子）

私とポーランドとの出会いは'92年駐日ポーランド共和国リプシッツ前大使が、新体制下におけるワルシャワ大学日本学科存続の為の資金援助をもとめておられる記事を読み、高島基金を創設させていただいた事に始まる。

日本は資源が乏しく、世界を相手に貿易立国として生きていかねばならない宿命を背負っているにも拘わらず、習得理解の難しいのが日本語、日本文化であり、その為多くの偏見や誤解を生んでいる。世界の青年が1人でも多く日本について学べば、日本が進まなければならない道の拡大に資すると共に、云われなき誤解が解消する早道と考え、すでにハーバード、カリフォルニア両大学に基金を設立し日本学講座・プロフェッサーシップを寄贈していたのでそれに続く私の志として決断した。

80年近い歴史を持つワルシャワ大学日本学科は世界に誇る教授陣のもと、西田哲学、宗教、歴史、文学、言語学、古典芸能等の充実した講座内容を持ち、学生達のレベルも非常に高い。ある女子学生は「切腹」を卒論に選んでおり、その主旨は自殺の方法の中で最も苦しい切腹を選ぶ国民性を知りたいからと述べたように、どの学生も強い意志をもって日本を理解する為に真摯に勉強する姿勢がうかがわれ感心させられる。又、愛国心も非常に強く、誇り高い資質を持っている。

今回これらの学生達を支援する目的で日ポサロンが設立されたことを聞き、大変嬉しく心からお祝い申し上げる。次代を担う若者を育てる喜びは何物にも換え難いと感じている。ご活躍を期待しています。

日ポサロン　発会式によせて

1999・9・22
ワルシャワ大学東洋学研究所副所長
岡　崎　恒　夫

この度の「日ポサロン」の発会に当たり、心からお祝いを申しあげます。このサロンは、1996年に就任された高島浩一　在大阪ポーランド名誉総領事がこれまで両国の友好親善のために行ってこられた数多くの行事に加え、両国間の文化交流をさらに深める目的を持って開設されると聞いています。

今年は日本、ポーランド国交樹立80周年とショパン没後150周年という記念すべき年に当ります。是を好機に両国の文化交流と相互理解を目指すこのような会

が発足する事は、大変有意義であると確信します。

古来、他人を知る事は自己を知る事であると言われております。他人を知って友と成し、その友との交わりの中に投影される自己を見つめる事こそ、自己発見の第一歩と言えましょう。

このサロンに参集される皆様がポーランドという国を知り、理解しようとなさる事は、実は日本及び日本人のアイデンティティーを知ろうとなさる努力なのです。このサロンでの活動を通して今まで以上に外に目が向けられると同時に、自分自身を観察し、数々の新たな発見があるだろうと確信します。この意義の大きさを信じているからこそ、私も今後皆様と協力をして行きたいと思っている次第です。

今後の「日ポサロン」の発展と皆様のご多幸をお祈り致します。

出会いを大切に

日ポサロン代表　河　合　康　子

岡崎恒夫ワルシャワ大学教授　1992年秋ポーランドの社会主義経済が崩壊、自由化の波を受けて経済がひっ迫し、政府の文教費削減政策のため、80年近い歴史を持つワルシャワ大学日本学科が存続の危機に瀕していた時、先生はこれを援助して欲しいと日本中をかけ回られた。当時、私は、ソロプチミストと言うボランティア団体に所属していたので、その年の12月会員の協力を得てバザーを催し、収益金の中から100万円を日本学科に贈り、存続の一助にしてもらった。先生は教え子が1人でも多く日本へ行けることを心底願っておられたが、日本との貨幣格差が大きく、自費の留学などは不可能に近かった。

私は、その後ポーランドに行き何人かの日本学科の学生に出会ったが、彼等の受けてきたきめ細かい日本語教育や、学問に対する真摯な姿勢は感動的で、一昔前の日本の学生達を見る思いがした。

ピヨトルクライン　1998年秋、私は、5年ぶりに「大阪府病院協会のツアー」で2度目のポーランド旅行をした時、ショパンの生家で彼のピアノを聴きとても感動し、ツアーで一緒だった牧吉子さんと、「何時か日本にいらっしゃい」と言うと、「来年3月に北海道へ行く」と聞き、「ついでに大阪までいらっしゃい」ということになった。翌年3月、梅田のモーツアルトサロンでミニコンサートを開き、在大阪ポーランド名誉総領事高島浩一様にも案内状を送った。

高島和子　名誉総領事に送った案内状に丁寧な返事を下さったのが、当時、秘書をされていた妹君の彼女だった。そのお返事が大変嬉しく、お礼の電話をかけポーランドのことや今までの事を色々話し、お互いの価値観が大変良く似ていることが分かった。その後互いの友人に声をかけ「日ポサロン」設立に至るまで多くの時間はかからなかった。

いくつもの出会いがあって、日ポサロンの設立にこぎつけたわけだが、これからは「日ポサロン」が会員の皆さんに良い出会いを提供しつつ、留学生支援につながるようにしたいと願っている。

ピヨトルクライン　コンサート&ディナー

1999年11月26日
クラブ関西
出席者　61名

ピアニスト　ピヨトルクライン

1983年　プロツワフ国立音楽学校入学
その後ロンドンロイヤルアカデミー入学
1996年　サンクトペテルブルグ
「ヴィルトーゾ2000」で第1位受賞。
1996、97年　2年連続で文化芸術大臣賞を受賞。
日本やヨーロッパ各地で演奏活動をする。

曲目　ショパン　ノークターン　幻想曲他

高島浩一名誉総領事とポーランド、日本国交樹立80周年のイヴェントに参加するため来日されていたリプシッツ前駐日大使、ワルシャワ大学近代史エヴァ・ルトコフスカ教授をゲストにお迎えして、流暢な日本語で日ポサロンの設立を祝って、今後の活動を期待するとのご挨拶を頂き、優雅でなごやかな晩餐会であった。

▲エヴァ・ルトコフスカ教授とリプシッツ前大使、ピヨトルクライン　ピアニスト

ポーランド留学生を囲んで話し合う会

2000年2月16日
ザ シティイクラブ備後町
会員　20名　留学生　3名

留学生の話しを聞き、会員同士も知り合いになる茶話会を開催。

アンナ　ザレフスカ
京大大学院在学　卒論は「般若心経」　現在は日本説話集の研究をしている。

ダレク　スタンコ
大阪大学経済学部在学「日本と世界の年金制度」について研究している。

マグダ　シィチェバニク
同志社大学在学　卒論は「みだれ髪」。俵まちと与謝野晶子を比較しながら、時代と共に女性がどう変化したか、しなかったかをテーマにしたい。

会員同士自己紹介をすると、江戸時代の邦楽研究家の箏、三弦の先生、総合芸術としての茶道研究家、30カ国以上の留学生をホームステイさせている人、20年以上コーラスで活躍している人、ユーロ、ドル、円の関係の中、ポーランドやロシアの経済がどうなるのかお話し下さった経済のスペシャリスト等など、多士済済で、日ポサロンの中に講師が沢山おられることを知った。

ピヨトルクライン ピアノコンサート

2000年5月27日
ザ フェニックスホール
330席　満席

前年度のディナーコンサートで好評を博し、梅田新道角にあるザ・フェニックスホールでの再演となった。彼の弾くマズルカは、日本人のピアニストにはない独特の持ち味があり、聴衆を魅了した。

コンサートの後、同じビルの地階にあるアサヒビヤハウスで約40人が集まって打ち上げパーティをし、参加者とピヨトルが親しく交流し、10月に行われる予定のショパンコンクールで彼がその成果をあげるよう励ました。

ルブリン舞踊団歓迎会

2000年7月26日
ホテル リーガロイヤル堺
参加者ルブリン 21名　留学生 3名　会員他 27名

世界で4年に一度開かれる世界民族芸能博が、今年は大阪堺市で開催されることになった。会員のポーランド民族舞踊研究家　清水恵児氏の努力でルブリン舞踊団の来日が実現し、総勢25名が民族芸能博に参加された。その後、芦屋、高槻、福岡等でも公演をされた。

団長は女性で、20年ぶりの来日を大変感激されていた。ダンサーは男女とも20代の人達で、音楽担当は中年の人達だった。若者は皆英語を話され、会員にも英語を話す人達が多く、どのテーブルもお互いに通訳しあいながら、会話が弾んでいた。

織畠会員のピアノ伴奏で両国の民謡、ポーランド民謡「森へ行きましょう」などの合唱を始め、次々と知っている歌を唄いだすうちに、お互いの気持ちが一つになって、大いに盛り上がり感動のうちにお開きとなった。

沢山の言葉より、一つの歌が、人々の心を繋ぐという事実を実感した。

▲ルブリン舞踊団の若きメンバー達

お知らせ

2000年3月23日に、日ポサロンの創設に大きいお力添えを下さいました在大阪ポーランド名誉総領事高島治一様が肝不全のためにご逝去なさいました。私共は、ご生前の熱いご意志を引き継ぐことをお誓いし、謹んでご冥福をお祈りいたします。

なお、日ポサロン設立時にお祝いとして、100万円のご寄付を頂きましたこともここにご報告申し上げます。

ポーランド 黄金の秋ツアー

2000年10月17日ー24日
参加者　19名

2000年はショパンコンクールの年。日ポサロンの人々がポーランドと親しくなるには、この機会を見逃してはならないとかねてから思っていた。コンクールは10月2日から22日まであると聞いていた。ワルシャワのジェトロに勤めているイヴォンナ・ムロチェックさんにチケットを買ってもらうよう依頼していたが、何時のチケットが取れるかによって日程が変わって来る。殆どのチケットは旅行社が買い占めていて一般には手に入らない。結局一番最後のガラコンサートが取れてスケジュールをそれに合わせた。黄金の秋には少し遅いかもしれないと思いつつ、8日間の日程を組んだ。ホテル、宮殿見学、ショパンの生家、レストランの予約は全て、1996年大阪教育大学に留学していたイヴォンナ　ムロチェックさんにお願いした。この旅行が成功したのも彼女に負うところが大きい。又、京大留学中のアンナ　ザレフスカさんも、私達に同行しガイド役、添乗員役といろいろ助けてもらった。このお二方に改めて当紙上よりお礼を申し上げます。

ツアー日程

〈10月17日〉

関西空港　19名全員の元気な顔がそろい、先ずはほっとする。

フランクフルトへ、ここでポーランド航空に乗り継ぐ時間が4時間あるので注意事項や簡単なポーランド語講座、自己紹介等をする。クラクフ空港に中島さんの荷物が届かずパニック。

〈10月18日〉

ヴァヴェル城、ヤギエウ大学、中央広場、旧市街等を観光、ランチは広場の側高級レストランでポーランド料理のフルコース、外の広場では中学生や高校生が好奇の目で私達を追い、一緒に写真を撮る。ディナーはChlopskie Jadloでポーランドの田舎料理。

〈10月19日〉

ワルシャワへのバス移動の途中、世界遺産に指定されているヴェリチカの岩塩採掘場に行く。地下130mのところに塩で出来た教会があり、フロアーもシャンデリアもマリア像も全てが塩で出来ているのに目をみはる。ワルシャワのホテルではピヨトルと彼のご両親を食事に招待した。

〈10月20日〉

旧市街、王宮、ショパンの心臓が眠る聖十字架教会等を見学、午後、ワルシャワ大学内を見学し日本学科の学生達と懇談。高島和子らが日本から持参した書籍を1人1人に手渡した。学生達と有意義な交流を持てた事にこの旅の一つの目的を果たした想いがあった。

▲日本学科教授 クリスチナ岡崎先生

▲ワルシャワ大 日本学科前で

〈10月21日〉

ワジェンキ公園、ヴェラヌフ宮殿を見学後宮殿裏の池のほとりを散策。秋晴れのさわやかな空気の中ゆったりとした時間が流れる。午後は自由時間。各グループに分かれ好きな場所へ。夜は旧市街の高級レストラン。ゲストに前駐日商務官フィリペック・深見夫妻と日本学科教授クリスティナ岡崎夫人、イヴォンナ・ナプラツカ先生をご招待した。

▲前商務官フィリペック深見夫妻

〈10月22日〉

郊外のジェラ　ゾヴァ　ヴォラにあるショパンハウスでコンサートを聴く。ラッキー！　ピアニストは50年近い昔のショパンコンクール優勝者チェルニー・ステファンスカさんであった。又、夜はナショナル　フィルハーモニーホールでコンクール入賞者6人のガラコンサートを聴いた。

〈10月23日〉

朝食AM6：30　ホテル出発AM7：30　空港にはイヴォンナ・ムロチェックとその友達が見送りに来ていた。皆手分けして私達の旅行がスムーズに行くようにはからってくれた人達だ。有り難う！

ワルシャワ空港で、ショパンコンクールで優勝した中国の青年リ・ユンディに会えて一同感激。

▲2000年ショパンコンクール第1位 リ・ユンディと共に

〈10月24日〉

[illegible]予定どおり関西空港着。ポーランドの[illegible]につめこんで全員が無事に帰国することで[illegible]。

参加者の感想

心に響くポーランド

山内雅子

いつかショパンの曲が弾けますようにと、小さな手を動かしていた幼い日に、ピアノの部屋の高い所から私を見守っていた肖像画……その静かな眼差しの主がショパンと気づいたのは、ずっと後になってから。

彼の故郷ポーランドは遠い異国、まさかこんなに早くこの目で見、この足で歩く日が来ようとは思いも寄らぬこと。勇気を出して、家族を残して訪ねた甲斐あって、素晴らしい友達との出会い、美しく豊かな音楽との出会いがありました。

5年に一度のショパンコンクールの年でしたので、ピアノを学ぶ私は、特別な思いを抱きながらポーランドの地に降りたのでした。

古都クラクフの街の息づかいは、そんな私の胸の高まりを穏やかにし、のどかな農村風景や大地は私を次第に包み込んでいきました。

きれいなメロディーに溢れたショパンの音楽、それは時に悲しいほど美しく、又、時には荒々しいほど激しい。昔むかしから、幾度となく国を失った人々の心の中の叫びが、ついに故郷へ帰ることなくこの世を去ったショパンにも受け継がれていたのでしょう。

コンクール入賞者の若者らしい生き生きとした演奏は輝いていて素晴らしいものでした。それぞれのお国柄が感じられ楽しんで聴きました、ことに第一位の中国青年のみずみずしさに、明日の中国を思いみました。しかし、それにも増して心に残るのは、あのショパンの生家で聴いたステファンスカさんの大地から低く強く響いてきたマズルカのリズムです。その昔、第一位に輝いた彼女の50年を経た深い心の音、ポーランドの魂に触れたような気がします。

はるかな時を超え、大切なものが、形あるものの中にも、目に見えないものの中にも確かに根付いている国ポーランドでした。その大切なものを、私もこれから子供達に伝えてゆければと思います。

黄金の秋……ポーランドを訪ねて

松　岡　朋　子

旅には、いろんな期待や楽しみがある。今回は予定されていたとは言え、ワルシャワ大学の学生さんや先生方との出会いはやはり一番印象に残り、その事がポーランドのこれまでの歴史や文化を凝縮して考える元ともなった。

今回の旅の仲間の平均年齢は50歳を越えており（精神年齢ならもっと若い）喋っては笑い、食べては堪能し、そしてガイドの説明に感動し、元気で意気軒昂。しかし時には自らの物忘れや頭の回転の軋みを嘆きつつ、ワルシャワの王宮で戦時下の青春を送られたガイドの語りにポーランド魂とも言える誇りと復興への熱意を感じ、また体制崩壊後の新しい時代に育った学生の日本研究のテーマについての発表では、違う意味で文化を求めてやまない進取な精神性の高さに心揺さぶられる時を過ごした。そして彼等の情熱と溌剌とした知識欲、好奇心は枯渇摩耗しつつあった我々の脳を十二分に刺激してくれたのである。

他国の勝手な領土争いの犠牲から国が消滅して120余年後、独立国家として立ち上った不屈の民族の精神を持つ彼等が、他国に支配される過酷な歴史もなく、今や問題山積みながらも天下泰平なアジアの小国、日本の文学や歴史を学ぶとは、一体どういうことなんだろう？　あの狭い教室の中で、1人1人の学生が、普通の日本人が知らない日本の歴史の1ページや高遠な文学の一説を、これこそ面白いと言わんばかりに語られると、日本ってそんなに興味がつきない？　と逆に感慨にふけってしまった。

後日、旅が終わってつらつら考えると、それは一つのことを究める大切さを実践している学生達の姿であったと思った。今の時代に持統天皇ってナニ？　山本五十六がどうした。と思いつつも、やはりそのことが日本という国、日本人を知るてがかりであり、文化や歴史を改めて考える道かなと思うと、日本学科の教師陣や学生達に大いに勉強してもらいたい、そしてそれを我々日本人に教えて欲しい。一方通行の学問でなく、相互に行き来する学問であって欲しいと遅れ馳せながら思う。

そのための支援を8年も前から実践している日本人がいて、また新たに始めようとしている日ポサロンの人々、軋み始めた我々の脳をたゆまなく刺激し、我々の国を再認識させてくれるポーランドの日本学科の先生達や学生にあらためてエールを送ろう。

最後に輝く思い出：豪華なショパンコンクールのガラコンサートやショパンの生家での珠玉のピアノ演奏会で、一般の旅では考えられない素晴らしい席に案内された時、まさしくポーランドの黄金の秋の一日を堪能したのである。又、ヴェリチカの岩塩採掘場での急転上昇の絶叫マシーンと化したエレヴェーターの体験も忘れ難く、現地の中学生と一緒に興奮のるつぼの中でカメラに収まったひと時も楽しい思い出となった。

すべての企画、運営に奮闘して下さった皆様に心から感謝申し上げます。

▲ビェリチカ，岩塩で出来た宮殿、シャンデリアも。

編集後記

2002年も残り少なくなり、2001年の活動を記録した会報No.2を早くお届けしたいと心せかれる思いです。皆様のご協力のおかげでこの活動も3年目を終わろうとしています。ささやかではございますが、こころざしを高く持って、これからも続けたいと願っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

★新事務局　〒595-0041　泉大津市戎町6-10　河合康子　TEL0725-32-6328
FAX0725-31-3747

会員名簿

(1999年9月設立時)

名誉顧問　高島浩一　在大阪ポーランド共和国名誉総領事
名誉会員　岡崎恒夫　ポーランドワルシャワ大学日本学科教授

有福美年子	河本義子	白樫直美	武田順子	西村　勲	藤井和夫
稲垣小燕	木越敏郎	鈴木亜紀	田中サヨ子	信原朝子	藤原千津代
岩本泰昌	木越雅子	杉本みちる	田中安夫	橋本旦子	堀　清子
岩本英子	岸田佐衛子	瀬戸生子	田中茂雄	原　仁子	堀本允美
大垣寿賀子	岸田綱太郎	瀬戸口道子	辻内鳳子	原田　毅	牧　吉子
大西勝子	岸本啓子	曽根勝節子	土本三恵子	平田弘子	牧野圭祐
大松有規子	郡田伊久子	曽根勝温美	椿　佳美	松田陽子	吉田時季子
織畠匡子	越崎富喜子	高島浩一	戸堂博之	三宅みすず	吉田禮子
澤濱撤郎	斎藤春子	高島よしえ	戸堂郁子	森田喜久子	吉野千穂
神垣美保	佐々木敦子	高島成光	中島　覚	山内寿美	若林圭子
金子フミ	佐藤允彦	高島斌子	中村佳世子	山本乃婦子	渡辺恵子
河合康子	鳴谷郁子	高島和子	中村菜子	吉岡久代	

■'99～'01年度　幹事

- 代表　河合康子　・副代表　牧　吉子・高島和子
- 会計　戸堂郁子　・事務局　平田弘子・岸本啓子

「日ポ　サロン」運営規則

1999年9月作成
2003年1月改定

(名　称)　1　この会は「日ポ　サロン」と称する。
この会の事務局は下記に置く
(〒595-0041)　泉大津市戎町6－10
河合康子　TEL 0725-32-6328　FAX 0725-31-3747

(目　的)　2-1　日本とポーランドの国交樹立80周年を記念として設立された会で、両国との文化交流と友好を目的とする。
2-2　特定の政治、宗教等と関係することなく、自由な個人の自由な参加を原則とする。
2-3　会員相互の親睦交流を推進し出会いの場を提供する。

(事　業)　3-1　この会は、会の目的を達成する為に適切な時期に次の事業を行う
イ　コンサート、講演会、講習会、展示会、バザー等
ロ　日本とポーランド両国相互の留学生への援助
(援助対象者及内容については幹事会で決定する)
3-2　事業に伴い必要な人的支援は会員のボランティアとする

(幹事会)　4-1　幹事会は次の構成とする。
代表　1名　副代表　若干名　事務局　若干名　会計　1名
4-2　幹事会はこの会の運営及び会員管理を行う。

(企　画)　5　この会の事業企画に関しては会員の自由な提案に基き幹事会で決定され会員に通知される。

(財産及び管理)　6　この会の運営は以下の財産をもって行い、会計がこれを管理する
イ　会費　ロ　寄付金　ハ　事業に伴う収入
ニ　財産から生じる収入　ホ　その他の収入

(会計年度)　7　この会の事業年度は1月1日から12月31日までとする。

(細　則)　8-1　この会の運営規則の細則は必要に応じ幹事会によって定める事とする
8-2　この会の慶弔の扱については、次のようにする。
イ　弔電は「日ポサロン」より打電する。範囲は会員本人とする
ロ　香典、花輪については幹事会が協議決定する。
8-3　2年にわたり連絡なく、会費未納入の場合は自然退会とする。